

単元に係る児童の実態
単元に係わる内容の各種調査やレディネステストの結果から特筆すべきことを記述する。
○レディネステストの結果から、本学級の児童は、絵や図を見て回答する問題は正答率が高い。
○未習問題であっても、既習のたし算を使って立式した児童が●名、 場面を簡単な図に表して答えを求めた児童が●名いた。
△問題文を読んで答える問題では、文を正しく読み取れない児童が●名いる。
△1年生で既習だが、生活の中で使うことの多い2・5・10とびが定着していない児童も数名いる。

単元のゴール
パフォーマンス課題を記述する。各種調査等の問題を活用する場合は、問題文を貼り付けてよい。
パフォーマンス課題 「○×△」のしきになるもんだいを紙しばいにして、友だちともんだいのときあいっこをしましょう。

数学的活動
ア身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や图形に進んで関わる活動
イ日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
ウ算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
工問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動
解説（p75）より抜粋する。

主体的・対話的で深い学びに向けて
単元の指導観を記述。本時の指導観は裏面。○○な学びにするために、・・・の場面を設定する。具体的には、
主体的な学びを実現するために、乗法の式と出会う活動を大切にし、ものの個数を数える際に、数のまとまりに関心をもてるような場面を設定する。具体的には、教室の机の並び、教室の窓、時間割表のコマ数、ノートのマス目など、数のまとまりに着目し、それらが同じ数ずつあることを見いだせば、乗法に表すことができるることを知り、その答えを簡単に求めたいという思いから乗法九九についての関心を高め、見通しがもてるようになる。
対話的な学びを実現するために、乗法九九を構成する中で、話し合い活動を通して友達の考えのよさを見つける場面を設定する。例えば、第1~6時では、児童が考えたそれぞれの考え方を比較・検討する場面において、これまでの同数累加による九九の答えの出し方に加えて、1つ前の九九の答えに3を足せばよいという新たな考えに気付けるようにすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようになる。
深い学びを実現するために、九九の構成を見直し、九九についてより深く理解する場面を設定する。具体的には、5の段から順に九九をつくり出す過程において、図に表したりアレイ図をもとに確かめたりしていくことで乗法九九の様々なきまりを見いだし、その後の活動においても子どもたちが自ら新たな九九をつくっていくようにする。

単元計画	
○本時のまとめ	◆身につけさせたい力 ◆ものの全体の個数を「1つ分」「いくつ分」ととらえることができる。
1 ○同じ数ずつのまとまりをつくって数えると数えやすい。	◆「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解することができる。
2 ○自転車には、1台に2人ずつ、6台分で12人のっている。	◆乗法の意味の理解を確実にすることができる。
3 ○「1台に5人ずつの3台分で、15人」は、「 $5 \times 3 = 15$ 」とあらわし、「五かける三は十五」と読む。 5×3 や 2×6 のような計算をかけ算という。 ○「1つ分の数」×「いくつ分」 = 「ぜんぶの数」	◆乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解することができる。
4	
5 •かけ算の式になるようおはじきをならべよう。	◆乗法の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解することができる。
6 ○ 6×4 の答えは、 $6 + 6 + 6 + 6$ の計算でもとめることができる。	◆身の回りから乗法の場面を見出すことができる。
7 ○長さをもとめるときもかけ算はつかえる。3cmの2つのことを、3cmの2ぱいといいう。	◆学習内容を適用して問題を解決する。
8 (やってみよう)	◆乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明することができる。
9 (力をつけるもんだい)	◆乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明することができる。
10 ○1はこに5こずつ入っているおかしは、1はこふえると5こずつふえる。	◆5のだんの九九を確実に唱え、適用することができる。
11 ○5のだんは、答えが5ずつふえている。	◆2のだんの九九を確実に唱え、適用することができる。
12	
13 ○1さらに2こずつのっているすしの数は、1さらふえると2こずつふえるから、2のだんの九九をつくればよい。	◆乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明することができる。
14 ○2のだんは、答えが2ずつふえている。	◆3のだんの九九を確実に唱え、適用することができる。
15	
16 ○1つ前の九九の答えに3をたせばよい。 ○ 3×9 のしきで、3を「かけられる数」といい、9を「かける数」という。	◆乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明することができる。 ◆乗法の式、被乗数と乗数の意味を理解することができる。
17 ○3のだんの九九は、かける数が1ふえると答えは3ふえる。	◆4のだんの九九を確実に唱え、適用することができる。
18	
19 ○4のだんの九九は、かける数が1ふえると答えは4ふえるから、1つ前の九九の答えに4をたせばよい。	◆乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明することができる。 ◆乗法の式、被乗数と乗数の意味を理解することができる。
20 ○4のだんではかける数が1ふえると、答えは4ふえる。	◆問題場面を式に表現することを通して、「1つ分の数」や「いくつ分」の理解を深める。
21	
22 ○図にかくと、「1つ分の数」と「いくつ分」がわかりやすい。	◆学習内容を適用して問題を解決することができる。
23 (力をつけるもんだい) (しあげ)	
24 (パフォーマンス課題)	

本時の目標	板書計画			本時の評価
問題づくりによる、式の読みや式に表現することをとおして、九九の理解を深める。(技)	<p>絵を見て 2×4、3×5 のしきになるもんだいを、それぞれつくりましょう。</p> <p>2×4</p> <p>1つ分の数 いくつ分</p> <p>2のまとまりが 4つ分</p> <p>教科書 p23 挿絵 拡大図</p> <p>1つのベンチに2人ずつすわっていま す。ベンチは4つあります。 ぜんぶで何人すわっていますか。</p> <p>3×5</p> <p>子ども1人が風船 を2こずつもってい ます。子どもはぜん ぶで4人います。 風船はぜんぶで何 こですか。</p> <p>4 × 2 ?</p> <p>「〇×△」のしきになるもんだいを紙 しばいにして、友だちとももんだいのと きあいっこをしましょう。</p> <p>{もんだい文 図</p>			評価規準 問題づくりにおいて、絵や図、言葉、式で表すことができる。
評価方法 作品の記述・ノートの記述				評価場面 活動 7

本時の主体的・対話的で深い学びに向けて	本時の流れ (授業スタンダード)			
本時の指導観を記述する。 本時の指導にあたっては、導入で、 2×4 の式の「1つ分の数」と「いくつ分」を図とともに確認し、○こずつ×△つ分を意識して問題づくりに取り組めるよう見通しをもたせる。 発表の際には、児童が考えた式と問題文の「1つ分の数」と「いくつ分」が反対になっているものを意図的に取り上げ、教師は「どこがまちがっているのでしょうか。」と全体に切り返すことで、誤りに気付き、考えを深められるようにする。 適用問題では、「〇×△」の式になる問題を紙芝居にして友達と問題を出し合うというパフォーマンス課題を設定し、これまでに学習したことを生かせるようにする。その際、友達の作った問題について「1つ分の数」や「いくつ分」を児童同士がお互いに問い合わせ合うようすることで、かけ算の式の理解を深められるようにする。	<p>目標・ねらいの提示</p> <p>1 問題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めに、2×4 の式の意味について問いかけ、2×4 を図で表し、「2のまとまりがの4つ分」であることを確認し、「1つ分の数」と「いくつ分」という用語を想起させる。 <p>2 課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4×2 の式を提示し、2×4 と 4×2 とでは式の意味が異なることに気付かせ、課題につなげる。 <p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1つ分の数」の表し方、「いくつ分」の表し方に気付かせるために、教科書 p23 の問題文の例を提示し、必要なところに下線を引いて確認する。 	<p>自分で考える活動</p> <p>4 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> なかなか取りかかれない児童には、「ベンチ」などの言葉を使えばよいことを伝えたり、「1つのベンチに」の書き出しを教えたりする。 	<p>仲間と学び合う活動</p> <p>5 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1つ分の数」の表し方について、「子ども1人が」や「1つのプランターに」などが不足することが考えられる。児童に考えを発表させた後、見通しで用いた問題文と見比べさせてることで、不足している部分に気付かせる。 <p>6 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「4×2」の式を提示し、式の意味を児童に尋ね、「2×4」の式とは「1つ分の数」と「いくつ分」が違うことに気付かせることでまとめにつなげる。 	<p>学んだことを実感 (ふり返り)</p> <p>7 パフォーマンス課題に取り組む。</p> <p>(1) 問題作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 予め教師が「2×6」や「4×3」などの式を用紙の裏に書いて問題作りをするための式を指定しておくことで、児童が問題作りをしたときに式の意味を理解しているかどうかを評価できるようにする。 <p>(2) 問題作りの際、机間指導を行うことで、あらかじめ指定した式に合った問題になっているかどうか確認する。もし指定した式と違っていた場合は、児童の作った問題文について「1つ分の数」や「いくつ分」を問い合わせることで、違う式になることを確認し、その上で児童の作成した問題を友だちとの解き合いに使用させる。</p> <p>(3) 友達の解答の答え合わせする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めに席が隣の児童と問題交換をし、解き合わせる。問題が解けたらお互いに答え合わせをさせる。同じ要領でグループ内でも交換して解き合わせる。